

＜ 双曲線ゼータとその派生式 その 2 4 ＞

新種の恒等式を見出したので報告したい。下記の⑮-Ⅱ、C 1、C 2の三つである。⑮は<その 1 3>で出したものだが、⑮-Ⅱと兄弟分なので一緒に並べた。

なお、双曲線関数 sinh, cosh はそれぞれ sh, ch と略記した。例えば、sh2a は sinh(2a) のことである。また a は任意の実数であり、よって例えば、(a > 0) は “a は 0 より大きい実数” を意味する。

=====

$$\begin{aligned} & \frac{1}{\text{ch}2a-\text{ch}0} + \frac{2}{\text{ch}3a-\text{ch}a} + \frac{3}{\text{ch}4a-\text{ch}2a} + \frac{4}{\text{ch}5a-\text{ch}3a} + \dots \\ &= \frac{\text{sh}2a}{(\text{ch}2a-\text{ch}a)^2} + \frac{2\text{sh}4a}{(\text{ch}4a-\text{ch}a)^2} + \frac{3\text{sh}6a}{(\text{ch}6a-\text{ch}a)^2} + \frac{4\text{sh}8a}{(\text{ch}8a-\text{ch}a)^2} + \dots \quad \text{----⑮} \\ & \hspace{15em} (a > 0) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & \frac{1}{\text{ch}2a-\text{ch}0} - \frac{2}{\text{ch}3a-\text{ch}a} + \frac{3}{\text{ch}4a-\text{ch}2a} - \frac{4}{\text{ch}5a-\text{ch}3a} + \dots \\ &= \frac{\text{sh}2a}{(\text{ch}2a+\text{ch}a)^2} + \frac{2\text{sh}4a}{(\text{ch}4a+\text{ch}a)^2} + \frac{3\text{sh}6a}{(\text{ch}6a+\text{ch}a)^2} + \frac{4\text{sh}8a}{(\text{ch}8a+\text{ch}a)^2} + \dots \quad \text{----⑮-Ⅱ} \\ & \hspace{15em} (a > 0) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & \frac{1}{\text{sh}2a-\text{sh}0} + \frac{2}{\text{sh}3a-\text{sh}a} + \frac{3}{\text{sh}4a-\text{sh}2a} + \frac{4}{\text{sh}5a-\text{sh}3a} + \dots \\ &= \frac{\text{sh}2a}{(\text{ch}2a-\text{ch}a)^2} + \frac{\text{sh}6a}{(\text{ch}6a-\text{ch}a)^2} + \frac{\text{sh}10a}{(\text{ch}10a-\text{ch}a)^2} + \frac{\text{sh}14a}{(\text{ch}14a-\text{ch}a)^2} + \dots \quad \text{----C1} \\ & \hspace{15em} (a \neq 0) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & \frac{1}{\text{sh}2a-\text{sh}0} - \frac{2}{\text{sh}3a-\text{sh}a} + \frac{3}{\text{sh}4a-\text{sh}2a} - \frac{4}{\text{sh}5a-\text{sh}3a} + \dots \\ &= \frac{\text{sh}2a}{(\text{ch}2a+\text{ch}a)^2} + \frac{\text{sh}6a}{(\text{ch}6a+\text{ch}a)^2} + \frac{\text{sh}10a}{(\text{ch}10a+\text{ch}a)^2} + \frac{\text{sh}14a}{(\text{ch}14a+\text{ch}a)^2} + \dots \quad \text{----C2} \\ & \hspace{15em} (a \neq 0) \end{aligned}$$

=====

⑮-Ⅱ、C 1、C 2 を今回証明できた。きれいな秩序から成っている。⑮と⑮-Ⅱは兄弟であり導出も近い。C 1 と C 2 も兄弟であり、同じような方法で導出できる。

念のため、Excel でも a にいくつかの値を代入して検証したが、いずれも正しい式であった。

前者の二式に比べ、後者二式は導出過程にひねりが加わっており、前者ほどシンプルな導出ではない。とはいえ、これら四式は導出途上で虚数を用いることで共通しており、例えば<その 1 3>で見た次のようなものに比べると、より深みのある式になっている (②は、導出で虚数は用いない)。

$$\frac{1}{\text{sh}^2a} + \frac{1}{\text{sh}^23a} + \frac{1}{\text{sh}^25a} + \frac{1}{\text{sh}^27a} + \dots = \frac{2}{\text{sh}2a} + \frac{4}{\text{sh}4a} + \frac{6}{\text{sh}6a} + \frac{8}{\text{sh}8a} + \dots \quad \text{----②}$$

(a > 0)

⑮、⑮-II と C 1、C 2 を比べると、左辺の形は似ているのに右辺の規則性が違っている点が面白い。

以下に⑮-II の証明の概要を以下に示す。

=====

⑮-II の証明の概要

まず第 2 別種系列の基本式 (sin 版) を示す。[基本式]とした。

$$\frac{\sin x}{e^a - 1} - \frac{\sin 2x}{e^{2a} - 1} + \frac{\sin 3x}{e^{3a} - 1} - \frac{\sin 4x}{e^{4a} - 1} + \dots$$

$$= (\sin x / 2) \left\{ \frac{1}{\operatorname{ch} a + \cos x} + \frac{1}{\operatorname{ch} 2a + \cos x} + \frac{1}{\operatorname{ch} 3a + \cos x} + \frac{1}{\operatorname{ch} 4a + \cos x} + \dots \right\} \quad \text{---[基本式]}$$

(-π/2 ≤ x ≤ π/2, a > 0)

この基本式は、11 年前に双曲線ゼータを導出した手法を一般化した方法 (定数を変数に変えた) を用いて導いた。その方法は当時の次サイトの 2012/5/3 の[導出]で A を導いた式変形と類似の方法である。

⇒ [ファン・ネス彗星 その 1 \(biglobe.ne.jp\)](http://biglobe.ne.jp)

なお上記基本式の導出において、公式集に載っているフーリエ級数を元にして導出した次のフーリエ級数を活用した。

$$\frac{\sin x}{e^a} - \frac{\sin 2x}{e^{2a}} + \frac{\sin 3x}{e^{3a}} - \frac{\sin 4x}{e^{4a}} + \dots = \frac{\sin x}{2(\operatorname{ch} a + \cos x)}$$

(-π ≤ x ≤ π, a > 0)

基本式を a で微分して得られた式を変形してき (左辺に sh, ch を出す変形など)、x に ai/2 を代入 (i : 虚数単位) して整形していき (三角関数を無くすなど)、最後に a を 2a で置き換えると⑮-II に到達する。

終わり。

=====

⑮-II はこのようにして得られた。⑮も同様の方法で得られる。

C 1 と C 2 は、二つの基本式を用いる点が上記証明と違うが、大きな視点では似ている (略)。

四式を再掲しよう。

=====

$$\frac{1}{\operatorname{ch} 2a - \operatorname{ch} 0} + \frac{2}{\operatorname{ch} 3a - \operatorname{ch} a} + \frac{3}{\operatorname{ch} 4a - \operatorname{ch} 2a} + \frac{4}{\operatorname{ch} 5a - \operatorname{ch} 3a} + \dots$$

$$= \frac{\operatorname{sh} 2a}{(\operatorname{ch} 2a - \operatorname{ch} a)^2} + \frac{2\operatorname{sh} 4a}{(\operatorname{ch} 4a - \operatorname{ch} a)^2} + \frac{3\operatorname{sh} 6a}{(\operatorname{ch} 6a - \operatorname{ch} a)^2} + \frac{4\operatorname{sh} 8a}{(\operatorname{ch} 8a - \operatorname{ch} a)^2} + \dots \quad \text{---⑮}$$

(a > 0)

$$\frac{1}{ch2a-ch0} - \frac{2}{ch3a-cha} + \frac{3}{ch4a-ch2a} - \frac{4}{ch5a-ch3a} + \dots$$

$$= \frac{sh2a}{(ch2a+cha)^2} + \frac{2sh4a}{(ch4a+cha)^2} + \frac{3sh6a}{(ch6a+cha)^2} + \frac{4sh8a}{(ch8a+cha)^2} + \dots \quad \text{---(15)-II}$$

(a > 0)

$$\frac{1}{sh2a-sh0} + \frac{2}{sh3a-sha} + \frac{3}{sh4a-sh2a} + \frac{4}{sh5a-sh3a} + \dots$$

$$= \frac{sh2a}{(ch2a-cha)^2} + \frac{sh6a}{(ch6a-cha)^2} + \frac{sh10a}{(ch10a-cha)^2} + \frac{sh14a}{(ch14a-cha)^2} + \dots \quad \text{---C1}$$

(a ≠ 0)

$$\frac{1}{sh2a-sh0} - \frac{2}{sh3a-sha} + \frac{3}{sh4a-sh2a} - \frac{4}{sh5a-sh3a} + \dots$$

$$= \frac{sh2a}{(ch2a+cha)^2} + \frac{sh6a}{(ch6a+cha)^2} + \frac{sh10a}{(ch10a+cha)^2} + \frac{sh14a}{(ch14a+cha)^2} + \dots \quad \text{---C2}$$

(a ≠ 0)

=====

これらはゼータの香りが漂っている。左辺と右辺の各項の分母で規則性が違っている点が興味深い。左辺と右辺はかけ離れた地点にあるように見え、証明はできても、くみ尽くせないなにかが残るような気がする。

最後に、テーマの整理と備忘録の意味から、構想や予想、妄想、つぶやきを述べておく。

=====

- (15)と(15)-IIはこの二式しか出ていない。C1とC2も二つしか出なかった。
 これまで四つ類似式が出ることが多かったのが、それぞれ四つ出るとは思ったが、二つだけであった。
 もしかしたらなにか見落としていて将来「四つ出た！」ということになるのかもしれないが、現時点ではたぶん無理である。

- これまで得た多くの恒等式の証明は、虚数を用いない証明と虚数を用いる証明の二つに分かれる。どちらの結果も最終は実数世界のふしぎな恒等式になる。ただし後者の方がより深いところからきているような気がする。

=====

2023.9.16 杉岡幹生

<参考文献>

・「数学公式II」(森口・宇田川・一松、岩波書店)